

宮城 社会 3.11大震災

<もう一度会いたい> 娘2人と無念の対面

◎ (3) 苦しんだ姿思い涙

遺体安置所に横たわる次女の顔は別人のようだった。

頬の皮膚がふやけている。長く水に漬かっていたせいだ。

今野ひとみさん(45) = 宮城県石巻市 = と夫浩行さん(53)の次女 = 当時(16) = は震災19日目に発見された。家の向こうの富士沼に沈んでいた。

ひとみさんは本人だと納得していない。

<我流で化粧>

遺体の口を開けてみる。

上の前歯の先っちょに治療の痕があった。

「ああ」

理加だ。

次女は小学生の時、教室の掃除中にオルガンに顔をぶつけ、歯を欠いたことがある。

白のパーカを着ていた。泥で黒ずんでいる。首回りにビーズアクセサリーの付いたデザインがお気に入りだった。

遺体は検視を終えた。

裸で引き渡された。

遺体が多く、死に装束が手に入らない。

バスタオルで体をくるんだ。

納棺師も手配できない。

我流で死に化粧を施した。

パフでファンデーションを塗ろうとすると、皮がめくれる。

ベビーパウダーを当てておしろい代わりにした。

震災の時、家には理加さんのほか、長女の麻里さん = 当時(18) =、同居する夫の父 = 同(77) = と母 = 同(70) = がいた。父は理加さん発見の2日前に見つかり、仮埋葬している。

地元の火葬場は依然空気がない。秋田の湯沢市の施設を押さえ、荼毘(だび)に付した。

<口の中に泥>

長女麻里さん発見の知らせはその時に届く。震災25日目。母も同じ日に見つかった。

ひとみさんと浩行さんは次女の骨を急いで骨箱に収め、車で引き返した。

麻里さんの遺体は傷んでいた。

右の耳の付け根が少し溶けている。

もう4月で気候が緩みだしていた。腐乱の兆候が見えても無理はない。

石巻西高のジャージの下の方をはいていた。この子の学校だ。

「今野麻里」の刺しゅうが縫い付けてある。

監察医から死体検案書が渡された。

<口腔(こうくう)内に木片、泥入る>

濁流にのまれ、もがき苦しんでいる姿が目に見えぬ。

床に膝を打つ音がした。

夫が泣き崩れていた。



ひとみさんが震災2カ月前に子どもたちと撮ったプリクラ。前列左が麻里さんで後列右が理加さん。最後の家族ショットとなった

拡大写真